

第2回 仙台市総合計画審議会 意見整理表

<都市像>

- 「誰にも優しいまち仙台」。NPOが目指そうとしている理念にも通じるもの。
【小岩委員】
- 「人を集める魅力とそのための機能を持っている都市」【今野（薫）委員】
- 「安心安全な、住み良い住み続けたい仙台市」（補足）【菅井委員】
「安全・安心なまち」：防災都市仙台、誰にとっても安心して暮らせる、健康都市仙台、高齢者と若者の共生、環境にやさしいなど
「住み良い住み続けたいまち」：経済面交通面で生活しやすい、若者に働き口がある、子育てしやすい、医療福祉が充実、学都仙台、杜の都、歴史と伝統文化、芸術スポーツなど。
- 「日本一集う、起こす人がつくる日本一住みやすいまち」【竹川委員】
- 「住みよいまち仙台」（追加）【中坪委員】
- 「誰にも優しいまち仙台」。誰もが活躍でき、本当に困っている人に手を差し伸べることができるようにしたい。【浜委員】
- 誰もが簡単に使えるICT社会 「身近なICT先端都市」 を目指してはいかがか。
【舘田委員】

<大切にしたい価値観、仙台らしさ、強み>

<p>学び (学都)</p>	<p>○地域社会と大学などが連携・協働して新しい都市をつくるという「<u>地学連携</u>」という考え方は重要。【阿部（重）委員】</p> <p>○仙台の各大学では優れた研究も進んでおり、芸術文化も育っているので、創造的な都市づくりを進め、<u>高度で多様な人材が集まって交流することで国際競争力を持つ</u>ことは可能ではないか。【小野寺委員】</p> <p>○<u>学びを「生かす」</u>ことが重要。【庄子委員】</p> <p>○<u>子どもも大人も「育て方」「学び方」「働き方」の基盤となる部分で歩幅を整え、改革していく</u>ことが重要。（追加）【中坪委員】</p>
<p>共生 (多様性)</p>	<p>○障害の計画を策定した時の理念は、<u>障害のある人に配慮した社会は誰にとっても暮らしやすい社会</u>だというもの。<u>ダイバーシティ社会や多様な方々が活躍する社会は強い社会</u>だという考えが大切。【阿部（一）委員】</p> <p>○これからのまちづくりには、市役所だけではなく、市民一人ひとり、企業や団体など地域が総動員でアクションを起こす必要性を感じており、<u>一人一人のあふれ出すアクションをいかに支援していくか</u>という考えが重要。市民協働の取り組みで生み出した成果の見える化や伝える力も重要。【遠藤（智）委員】</p> <p>○障害のある方もない方もともに暮らしやすいまちをつくるといった条例も作っており、<u>共生をキーワードに暮らしやすいまちづくりを進める</u>ことが重要。【鎌田委員】</p> <p>○<u>仙台らしさを育む未来の子どもたちを応援する10年間</u>になれば良い。【小岩委員】</p> <p>○<u>「心の支え合いの基盤づくり」</u>。リソースを活用して、専門家と市民が協働した日常的な心の支援、相互の支え合いの基盤づくりが重要。【佐藤委員】</p>
<p>環境 (杜の都)</p>	<p>○<u>東日本大震災の教訓</u>として、非常時でも安全に対応できることが大きな学びであり、発信すべきもの。【阿部（一）委員】</p> <p>○国際競争力の視点が重要であり、美しい都市、緑が豊かな都市、安全な都市を求めてグローバルな都市間競争が行われている。<u>仙台市の武器の一つは「環境」</u>であり、<u>せっかく国連防災世界会議を開催し、仙台から発信しているので、そういった視点を外に向けて打ち出していきたい</u>。【舟引委員】</p> <p>○環境の中に防災力を含めてみようとしているのは良いことであり、<u>自然災害に見舞われた仙台の人が知っていることを世界に向けて発信していく必要がある</u>。【渡邊委員】</p>

<p style="text-align: center;">活力 (東北の 中枢)</p>	<p>○仙台圏のみならず<u>東北にある 227 市町村の中核</u>であるという意識のもと、<u>全体の課題解決や情報共有</u>を行い、<u>国に発信する力</u>が仙台にはあり、責務をしっかりと果たしていくべき。【菊地委員】</p> <p>○仙台は、東北の中でも特別輝いているまちなので、東北の方たちのみならず、<u>東北以外の方たちにも「仙台で働きたい」「あのまちいいよね」と</u>思ってもらえるまちというのが究極の姿。【今委員】</p> <p>○東北の中核都市としてプライドを持った<u>人材育成、ひとづくり</u>は大事にしたい価値。【庄子委員】</p> <p>○<u>震災後を経て、特に若者を中心に「地域のため、社会のため」に何かをやりたいという方が多いのが仙台の強み</u>。こういう方たちの気持ちをいかに「社会課題解決」という行動につなげるかがポイントであり、そうすれば「在宅生活支援」「共生社会」「子育て・教育」を含め、施策の方向性を全体的にカバーできるのではないか。(一部補足)【竹川委員】</p> <p>○首都圏から新幹線で 1.5 時間と近いことは<u>地の利</u>であり、<u>戻りたいときに戻れるまち</u>とも言える。日本全体の中で仙台の位置づけを考えてはどうか。【渡邊委員】</p>
<p style="text-align: center;">その他の 価値 及び 大事な 視点</p>	<p>○「<u>挑戦</u>」「<u>創発</u>」：失敗してもチャレンジできる環境が大事であり、例えば、チャレンジするためのインセンティブを与えても良いのでは。【榊原委員】</p> <p>○「<u>楽都仙台</u>」：音楽ホール整備の検討も進めているが、楽都も仙台の大事な都市個性。【庄子委員】</p> <p>○「<u>身近な ICT 先端都市</u>」：EU では、QOL (生活の質) をいかに向上していくかというものに ICT を使おうとしており、基本的に ICT はありとあらゆるところに入ってくる。人口減少社会では、生産性向上どころではなく、人が働けなくなったところではいかに ICT を使うかが大事であり、ICT をわかりにくいものではなくもっと身近なものにしたい。【舘田委員】</p> <p>○「<u>次代の育成</u>」：例えば、世代間交流や各世代を通じた健康づくりだけではなく、時間軸の視点として、様々な施策に関する次代の育成という視点が必要ではないか。【菊地委員】</p> <p>○「<u>ひとづくり</u>」：未来を担う人をどう育てるか、ひとづくりの観点が重要。【やしる委員】</p>

< 施策の方向性 >

魅力ある都市基盤づくりと都市個性の発信	
まちの 魅力 づくり	<p>○<u>仙台市の魅力の再発見</u>に向けた仕掛けも必要ではないか。そのことが地元の魅力大切に、地元で生きていくことにつながる。東京志向と対峙して、<u>仙台のライフスタイルの素晴らしさをいかに伝えるか</u>が大切。 【阿部（重）委員】</p> <p>○「<u>歩いて楽しいまち</u>」をどうつくるかが重要。その際には、<u>自動車交通と徒歩との関係性</u>をどう整理するかが必要であり、そのうえで<u>回遊性</u>という話になってくる。【姥浦委員】</p> <p>○「<u>人を集める魅力とそのための機能を持っている都市</u>」（再掲） 【今野（薫）委員】</p>
国際化 ・ 広域連携	<p>○<u>東北唯一の政令指定都市</u>として、必ずしも連携中枢都市圏に限るわけではないが、<u>独自の連携施策</u>を練り上げることが必要（福岡都市圏の例示）。【飯島委員】</p> <p>○仙台で働きたいと思ってもらえるためには、地元の企業を巻き込んだ施策展開はもちろん、まずは、<u>いかに仙台に足を運んでもらえるか</u>ということを考えていくことが大切。【今委員】</p> <p>○<u>仙台が東北のゲートウェイ</u>。東北全体を育てないとインバウンドが増加しないので、仙台市が人を育てて東北に送り出し、<u>東北がより魅力的になるような施策展開</u>が重要。【庄子委員】</p> <p>○「<u>国際化</u>」や「<u>国際交流</u>」など<u>グローバルな視点</u>や「<u>観光開発</u>」の視点を含めて全体的に捉えて欲しい。【菅井委員】</p>
杜の都の 環境	<p>○東日本大震災の教訓として、<u>非常時でも安全に対応できることが大きな学びであり、発信すべきもの</u>。（再掲）【阿部（一）委員】</p> <p>○<u>エネルギー問題</u>をどう絡ませていくか。（補足）【菅井委員】</p> <p>○<u>仙台市の武器の一つは「環境</u>」であり、せっかく<u>国連防災世界会議</u>を開催し、仙台から発信しているので、<u>そういった視点を外に向けて打ち出していきたい</u>。（再掲）【舟引委員】</p> <p>○仙台が過ごしやすい気候だというのは楽観的。気候変化に対して、「<u>低炭素</u>」の取り組みが<u>全く不十分</u>であり、強力に進めるべき。環境の中に防災力を含めてみようとしているのは良いことであり、<u>自然災害に見舞われた仙台の人が知っていることを世界に向けて発信</u>していくことが必要。（再掲）【渡邊委員】</p>

学びがい、働きがいのある環境の構築	
地学連携	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>地学連携に向けたプラットフォーム</u>の構築が大きな意味を持つてくるのではないか。【阿部（重）委員】 ○地元企業と地元大学との立体的な連携が必要であり、<u>学生と企業が連携して課題を解決していくためのモデル</u>を作っていけないか。【今野（彩）委員】 ○学びを生かすという視点のもと、<u>大学で学んでまちづくりに生かす</u>というキーワードが入っても良いのではないか。【庄子委員】 ○「<u>スチューデントシティ</u>」や「<u>職場体験</u>」の取り組みは素晴らしいが、より幅広い世代に、かつ<u>農業や伝統工芸、高齢者施設</u>など仙台区に残していかなければならない分野までより多岐にわたって取り組むことができれば良いのではないか。また、<u>行政、企業、地域と小中高生の多感なアイデア</u>により、大人も子どもから学び新しい開発や人材育成につながるシステムができればよい。（追加）【中坪委員】 ○「学び」において、初等中等教育は今のままで良いのか。<u>ボリュームゾーン</u>の子どもたちをたくましく育てる視点が必要。【渡邊委員】
若者 ・ 働き方	<ul style="list-style-type: none"> ○<u>働き方の価値観</u>など、「<u>多様性</u>」という言葉を丁寧に議論して、<u>行政だけでケアするには難しい分野をあぶりだして民間の参入を促す施策</u>が必要ではないか。働きたいと思える企業体がないという事実がこのまちの特徴にならないようにしなければならない。【岩間委員】 ○<u>いかに働く環境を作るか</u>、働く世代の方にいかに住んでいただけるかという視点が必要。【小野寺委員】 ○「四方よし」の特に4つ目の「<u>働き手よし</u>」の<u>まちだとプロモーション</u>できるよう企業も努力し、<u>働き方の希望とマッチした働く場所をいかに確保できるか</u>が重要。【今野（彩）委員】 ○震災を経て、特に若者を中心に地位のために何かやりたいという人が多くなっている仙台の強みを活かした、社会起業を促進、支援する土台をつくるのが重要。（補足）【竹川委員】 ○首都圏から新幹線で1.5時間と近いことは<u>地の利</u>であり、<u>戻りたいときに戻れるまち</u>とも言える。日本全体の中で仙台の位置づけを考えてはどうか。（再掲）【渡邊委員】

<p style="text-align: center;">企業の 魅力創出</p>	<p>○10年後に49%の仕事が機械にとって替えられるという試算もあり、<u>中核企業の育成のみならず、どのように仕事を創出するべきか</u>という議論も必要ではないか。【菊地委員】</p> <p>○<u>医療・介護・福祉</u>はこれから労働人口が増えていくので、ある意味<u>成長産業として捉えるべき</u>であり、企業や社会福祉法人をもっと活用し、安定した高齢化社会の構築を目指したい。【折腹委員】</p> <p>○<u>リカレント教育</u>は、生涯学習や趣味の延長ではなく、<u>攻めの学びの姿勢</u>であり、「生産性向上・イノベーション」に寄与する。【やしろ委員】</p> <p>○貧困の問題、これから女性が働き手として重要となってくることなど共生の部分を経済の活性化が支える部分も大きい。<u>人もお金も入ってくる魅力ある中小企業の育成が必要</u>。【佐々木委員】</p>
--	---

安全安心に暮らせる共生社会の実現	
共生社会	<p>○<u>ユニバーサルデザイン 2020 行動計画</u>など国の取り組みで良いものは積極的に取り入れる視点も大事。SDGs も学んだ上で仙台らしさを考えることが大事。【阿部（一）委員】</p> <p>○<u>農業を通じて、子どもたちや、高齢者、障害者が都市の中で共存し、学びなど様々な分野に役立つ可能性があり</u>、農業を通じた面白いまちづくりに活かしていきたい。【遠藤（耕）委員】</p> <p>○生活の場としての最低限の条件として、「<u>安全安心</u>」の観点も重要であり、災害や犯罪から守られ、医療・福祉の面でも安心して暮らせる場でなければならない。【小野寺委員】</p> <p>○<u>グレーゾーンの子どもたち</u>も増えており、こういった子どもたちへの対応も大切。【小岩委員】</p> <p>○LGBTの上位概念である「<u>SOGI</u>」というキーワードもあって良い。【今委員】</p> <p>○<u>貧困の問題、これから女性が働き手として重要となってくる</u>ことなど共生の部分を経済の活性化が支える部分も大きい。人もお金も入ってくる魅力ある中小企業の育成が必要。（再掲）【佐々木委員】</p>
高齢 ・ 健康	<p>○高齢者の絶対数のピークが来る際に、<u>火葬場の能力とどの程度ギャップ</u>があるのかについて知っておきたい。例えば、横浜の遺体安置を主とした事業者のように高齢者の問題を考える際には企業の役割を積極的に位置づけるべき。多様な主体として、「企業」は明記すべき。【阿部（重）委員】</p> <p>○家で生活することを支えるというより、地域で生活することを支える「<u>地域包括ケアシステム</u>」構築を目指す社会としては「<u>地域生活支援</u>」というキーワードが適切。高齢になってすぐ介護が必要になるのではなく、<u>健康維持のための介護予防や就労で元気をつなぐ活動が幸せな高齢社会につながる</u>と考えており、<u>企業の社会貢献</u>を位置づけることも重要。【折腹委員】</p> <p>○65歳や75歳でも働ける方も多く、<u>高齢者という場合の年齢の考え方</u>も検討していくべきではないか。【小岩委員】</p> <p>○人生100年社会というが、平均寿命と健康寿命に乖離があっては厳しい状況になるので、<u>健康寿命の延伸</u>という視点を入れて欲しい。【永井委員】</p>

<p style="text-align: center;">地域 づくり</p>	<p>○郊外地域における移動手手段の問題と関連して、<u>高齢者の買い物問題</u>について、昨今は大手企業も参入しており、行政としても対策を検討するべきではないか。【阿部（重）委員】</p> <p>○<u>地域の小さい単位のエリアマネジメント</u>などに取り組む主体に対して、所有権を超えた管理能力を与えるなど、仙台発のまちづくりを全国に発信できる施策を打ち出したい。【姥浦委員】</p> <p>○将来見通しでも示されている通り、都市部より郊外地域において色濃く出ている<u>買い物弱者、交通弱者対策</u>について検討し、安心して暮らせる状況を作っていくことが必要。【鎌田委員】</p> <p>○<u>地域コミュニティ</u>がいかにあるべきかという視点も、基盤的な事項に入ってくるのではないかと。【菊地委員】</p> <p>○地域づくりには、行政や学校だけでなく、住民が一緒にかかわっていくべきと考えており、<u>地域のリーダーやコーディネーターを育てる</u>視点も重要。【小岩委員】</p> <p>○<u>地域のコミュニティ</u>が重要。町内会はもちろん、<u>企業も一つのコミュニティ</u>であり、意見を発信できる場、実行できる場という単位で考えていくことが必要。【今委員】</p> <p>○<u>地域コミュニティ</u>が構築されると、高齢や子育てなどが包括的にクリアされる部分大きい。【佐々木委員】</p> <p>○<u>町内会には、仙台市の全世帯の約8割の世帯が加入している</u>ということ踏まえていただきたい。（補足）【菅井委員】</p> <p>○<u>町内会活動に若い人が参加</u>し、もっと地元で課題を解決できるようになれば良い。【浜委員】</p>
<p style="text-align: center;">区 の役割</p>	<p>○仙台市がこれまで<u>行政区として取り組んできたものをさらに発展させていく</u>こともあるのではないかと。併せて、小学校区単位を中心とする地域運営組織やエリアマネジメントの取り組みなど、<u>「共」を担う主体や公共的活動をいかに支えていくか</u>といった視点も仙台らしさの中で考えていくことができるのではないかと。【飯島委員】</p> <p>○<u>市役所と区の関係</u>を将来的にどのようにしていくかということを示す必要があるのではないかと。【姥浦委員】</p>

<その他>

<p>市役所 経営</p>	<p>○人口減少社会においては、職員の確保が問題ということではなく、職員数もそもそも減らしても良いのではないかと。本庁舎建て替えの根本的な情報として方向性を示す必要があるのではないかと。【姥浦委員】</p> <p>○政策形成過程への市民参画という点において、総合計画の作り方自体を協働で示していくことができれば良い。【遠藤（智）委員】</p> <p>○これからの仙台市はどうやって歳入、収入を確保していくかという視点が大切。【小野寺委員】</p>
<p>計画の 考え方 及び 進め方</p>	<p>○大切にしたい価値という心が都市像に結びついてくると考えており、都市個性に立脚し、さらに発展させた、仙台の目指すまちを掲げていきたい。【柿沼委員】</p> <p>○都市像について、帰納・演繹の両策で進めようというのは同じ気持ち。自助を基盤的な事項、施策の方向性として入れていく必要がある。【菊地委員】</p> <p>○多様な主体を目指す方向性を共有するためには、数値目標のような参加のインセンティブを計画に盛り込んではいかがか。例えば、人口が減っても、市内総生産額を10年間キープする、機能集約型市街地の目標として駅周辺の居住率50%から70%、市税収入1885億円から2000億円など。（一部補足）【榊原委員】</p> <p>○個別計画との整合を図るべき。【庄子委員】</p> <p>○分野ごとの反省から入ると前例踏襲か細分化になって時代遅れになる。例えば、SDGsは2030年までの国際目標であり、そういった視点を意識するなど新しい考えを吹き込んでいくことが必要。【舟引委員】</p>